

図画工作科学習指導案

指導者 天野 紳一

- 1 日時 令和5年11月18日(土) 第2校時(10:05~10:55)
- 2 学年組 小学校第6学年1組 計31名
- 3 場所 小学校図工室
- 4 題材名 私小説～i-novels 『私の青空』
- 5 題材について

題材の設定にあたって～児童の姿と教師の願い

後期に入って6年生の児童は卒業記念オルゴールボックスの製作に取り組み始めた。「自分らしさ」「大好きなものや続けてきたこと」「大切にしている言葉」「6年間の小学校生活の思い出」「東雲小学校らしさ」など、いくつかの切り口を提示してアイデアスケッチを行っていた時のことである。なかなか手の進まないある児童が「思い出がなさ過ぎる…」とつぶやくのを耳にした。この言葉がどうにも心に引っかかった。3年生で初めて出会って以来4年間この学年の授業を担当してきたが、意欲も発想も豊かで、図工の時間を存分に楽しんでいた印象が強い。高学年になってからはコロナ禍の閉塞的な状況も徐々に落ち着き、本校の特色である縦割活動や様々な行事も戻り、『東雲家族』を合言葉に学年や学級を越えた関わりを大切にしながら過ごしてきたはずの児童のつぶやき。それはきっと、「思い出がない」のではなく、思い出に向き合い、自分自身を見つめ直す心になれないのだ。小学校生活最後の年を迎えた6年生の児童は、これからほぼ全員が中学受験という大きな壁に立ち向かわねばならない。プレッシャーに押し潰されそうになり、時には挫折を味わい、価値観が狭まり、自分を見失ってしまいそうになる。そんな彼らに今一度、自分自身と静かに向き合う機会をもって欲しい。そして、何気ない日常のくらしの中でこれまでどんな人やものと出会い、どんな思い出を刻んできたのか。今この時を、本当は何を願い、どんなことを考えながら過ごしているのか。そして、この先どんな夢を描いているのか。過去から現在、そして未来へと途切れることなく続く時の流れの中に立つ「私(わたくし)」という存在をありのままに認め、慈しんで欲しい。

題材の概要

< 私小説(i-novels)とは >

作者自身を主人公とし、自分の生活や経験を虚構を排して描き、自分の心境の披瀝(心の中にある感情や思いを隠さずに打ち明けること)を重視する日本近代文学に特有の小説の一形態。わたくし小説。 【oxford languages】より

本題材では、児童一人一人が手持ちのタブレットにインストールされている iMovie の機能を用いて自分だけのムービーを作成する。日々の学校生活の中で何気なく目にしている景色、足下に見つけた草花、校庭の木々を揺らす風、教室や廊下の佇まい、雑踏や笑い声、自分だけの思い出に彩られた密かなお気に入りの場所、見上げる気持ちを映す空模様…。自分だけの心のフィルターを通して切り取った画像や動画を思い思いに組み合わせ、メッセージを添えながら音楽に合わせて構成する。つまり、メディアアートの手法を用いた私小説(i-novels)を綴るのである。

現代芸術教育におけるメディアアートの位置付けについて、全米美術教育学会(NAEA)前会長ロバート・セイボル(Robert Sabol)教授は、2013年12月に広島大学大学院教育学研究科において開催された講演会¹⁾の中で『ダンス、音楽、演劇、視覚芸術に加えて独立すべき新しい5つ目の芸術教科である』と紹介している。当時の米国における視覚芸術教育の新しいナショナル・スタンダード作成に向けた動向をテーマとした同講演会では、メディアアートはコンピュータをはじめとする多様なテクノロジーとメディアについて学ぶことを含み、テクノロジーとメディアアートを美的に満足のいく方法で、ま

た芸術的に堪能な方法で使う術を教えるのが重要であるとの報告もなされた。以来この 10 年間でメディアアートは驚くべきスピードで社会に浸透し、我々にとって欠くことのできない表現手段の一つとなった。多様な芸術分野において特別な教育や訓練、プロモーション等の手続きを踏むことなく自分の感性や才能を直接発信できる今、誰もが表現の主体となり得る。本題材で用いる iMovie は、児童が思い思いに撮りためた写真や動画、音楽等の素材を自由に加工したり、編集したりする作業を容易にするアプリである。どんな風景をどんな視点やアングルで切り取れば美しいか、フォーカスの当て方や色合いはどう調整するのか、音楽に合わせた自分なりのストーリーを紡ぐためにどう配置するのか、様々な試行錯誤を繰り返すプロセスを通して、今まで改めて考えようとしなかった自分自身の内面やアイデンティティに迫っていくことが本題材のねらいである。

指導の手立て

(1) 導入～『自分ノート』の作成

題材の導入にあたり、まず自分自身に目を向けていく内省的な視点を意識できるようにすることが不可欠である。そこで、名前や生年月日、好きなことや大切にしていること、学校生活の中で居心地の良い場所や時間、今の素直な願いや将来の夢など、今回作成するムービーの材料になりそうな項目について、自分自身に問いかける感覚で『自分ノート』（プロフィールカード）の作成を行う。

(2) 目標に対する理解とモチベーションを高める主題設定→**児童会ソング『青空』**

『青空』
2021.10.28
東雲小児童会ソングプロジェクト

いつものドアをあける
おはようとひびく声
窓から見えるいつもの景色
今日という日が始まる

広いグラウンドに出ると
みんなが待っている
ふり向いた笑顔の向こうには
もう動かない天文台

見上げれば青い空で
ぼくらはつながってる
どこまでも青い空で
世界はつながってる

見上げれば青い空で
ぼくらはつながってる
どこまでも青い空で
世界はつながってる

何気ない会話 心の居場所
放課後の教室に響く声
また明日と声かけ
ずっと変わらない東雲家族の絆

見上げれば青い空で
ぼくらはつながってる
どこまでも青い空で
未来へつながってる

2021年10月28日。学校の創立146周年を祝う記念日に合わせて新しい児童会ソングが生まれた。「コロナ禍で一変した日常、絶たれてしまった東雲小学校本来の縦と横の繋がりを取り戻したい」という願いのもと、当時の運営委員会プロジェクトチームの児童が歌詞を考えた『青空』である。発表当時は声に出して歌うことができなかったが、現在では音楽朝会や児童会行事を通してすっかり全校児童に親しまれている。本題材では、この曲の歌詞に込められた意味を自分なりに解釈し、動画と静止画を組み合わせながら自分なりの「青空」の世界観をPV（プロモーションビデオ）として表現していく。曲の主題は誰にでも当てはまる「日常」であり、登校してから下校するまでの一日の時間の流れの中でストーリーが展開していく。日々の何気ない出来事に目を向け、学校や仲間への思い、些細な思い出、自分の回りを取り巻く様々な環境等に思いを馳せることのできるモチーフである。

(3) 試行錯誤を可能にする環境設定→**取材活動**

『青空』の歌詞や曲想をイメージしながら、タブレットを用いて取材活動を行う。ゆったりと校内を散策しながら五感を働かせ、空間を彩る様々な要素をまるごと写し取るような取材活動にしたい。そこで目にする色、形、モチーフ、そこで感じる風や空気、音や匂い、さらには自分だけの思いやこだわりなどを記録するには、どのような視点で風景を切り取ればよいのか、アップやルーズをどのように用いるか、様々な試行錯誤が展開されるはずである。また、この取材活動は、決められた授業の時間にだけ

行うわけではない。朝早く登校したときの誰もいないグラウンドやひっそりとした廊下。だんだんと日が短くなった秋の放課後に差し込む光。毎日通ってきた通学路の風景。個人用タブレットの利点を活かしてダイナミックな取材活動を展開し、より私的な素材を集めることができるようにしたい。

(4) 試行錯誤を可能にする環境設定・プロセスの記録→編集作業

撮りためた画像や動画をタブレットの機能を用いて編集する。トリミング、露出、彩度や色相の調整といった写真や動画そのものの編集、それらを曲想に合わせてどう配置し、展開していくのか、iMovieのテンプレート等も活用しながら自分なりの『青空』の表現を追究していく。ここでは敢えて歌詞そのものを画面に挿入することはせず、映像のみで表現するようにしたい。この過程を通して、いつも何気なく見ていた日常の中にある美しさや愛おしさ、自分にとっての価値に気づき、それを見つけた自分の感性の存在に気づいてくれることを願う。またこの活動では、どんな意図でどんな編集を試みたのか、それがうまくいったのか、いかなかったのか、次にどうしたいのか、プロモーションビデオの完成に至るまでのプロセスを「ミニ編集後記」として残すようにする。

(5) 学習過程に位置付いた振り返り→卒業記念上映会（プレゼンテーション）

児童会のテーマソング『青空』をモチーフとして自分の日常を綴ったプロモーションビデオは小学校生活の思い出がたっぷり詰まったものになるはずである。そこで。本題材を卒業までの長期的なスパンの中に位置づけたい。受験という大きなイベントの中で喜びや挫折を実感し、6年間過ごした学び舎を巣立つ日が近づくに連れ、児童の心持ちは今現在とは大きく異なってくるであろう。一度作成したビデオを見直し、振り返り、また新しい視点で編集し直すことができるのも、タブレットの利点である。

3月。卒業記念上映会を行い、編集後記としての想いを添えて本題材が完結する。

6 題材の目標

- 1 視点やトリミングの工夫、構図や画面構成による見え方の違い、露出や色調などがもたらすイメージの違い、エフェクトが与える視覚的効果などの造形的要素について理解し、自分の表現意図に応じてタブレットの機能を活用することができる。【知識・技能】
- 2 モチーフとなる楽曲の歌詞や曲想に対する自分なりの解釈をより美しく、情緒豊かに表現するためにはどうすればよいか、素材の選択、構図や画面構成、編集方法やストーリー展開について試行錯誤を重ねながら考え、判断し、伝えることができる。【思考・判断・表現】
- 3 日々の何気ない出来事に目を向け、学校や仲間への思い、思い出、身の回りを取り巻く様々な風景等を造形的な視点で記録・編集する活動を通して自身の内面と向き合い、アイデンティティーを見つめ直し、それを表現することの喜びを味わう。【主体的に学習に取り組む態度】

7 指導計画(図画工作科の授業として実施する時間…全12時間)

次	時	学習内容
一	1	導入：題材のねらいと概要を把握する。
二	4	取材活動：自分なりの『青空』のイメージをもとに動画や静止画の素材を集める。
三	6	編集作業：歌詞や曲想と自分の思いを重ね合わせながらムービーを編集する。(本時は1/6)
四	1	卒業記念上映会：鑑賞を通して自らの学びをふりかえる。

8 本時の目標

『青空』の曲想や歌詞から自分なりに膨らませたイメージに合わせて素材を選択し、他者に伝える意識をもってイントロ部分（8小節）のムービーを編集することができる。【思考・判断・表現】

★準備物

個人用タブレット、ミニ編集後記用シート

9 「教科本来の魅力に迫るための教師の資質能力」との関連(本時)

基準	具体的な児童の姿
Ⅲ	自分なりのイメージや表現意図を明確にもって編集作業に没頭している。
Ⅱ	試行錯誤を通して徐々に自分なりのイメージを見出したり膨らませたりしている。
Ⅰ	なかなかイメージを持つことができず、ムービー制作が進まない。
手立て【関連する教師の資質能力】	
<p>○児童がそれぞれ自分なりの見方や感じ方，感覚，感性を存分にはたらかせながら主体的，追求的に取り組むことのできる目標設定をする。【授業構想力】</p> <p>○十分に試行錯誤できるような学習環境の整備と時間の保障に努める。【授業構想力・授業実践力】</p> <p>○振り返りのための振り返りではなく，学習過程の中に自然に位置付いた振り返りの方法と場を工夫する。【授業分析・評価力】</p> <p>○児童の多様性を温かく共感的に受け止め，価値付けるとともに，個々の思いの具現化のために必要に応じて適切な支援や働きかけを行う。【授業実践力】</p>	

10 学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
<p>1 学習課題を把握する（5分）</p> <p style="text-align: center;">『青空』のオープニングムービーを編集しよう。</p> <p><input type="checkbox"/> 本時の学習の見通しをもつ。</p> <p>①オープニングに相応しい素材を選び調整する。</p> <p>②イントロ8小節分のムービーを編集する。</p> <p>③試写会を行い，互いの途中経過を鑑賞し合う。</p> <p>④ミニ編集後記を残す。</p> <p>2 編集作業を行う。（25分）</p> <p><input type="checkbox"/> 素材を選択し，調整する。</p> <p>・自分のイメージに合わせて素材を選び，トリミング，露出，色調等の加工，調整をする。</p> <p><input type="checkbox"/> オープニングムービーを作成する。</p> <p>・曲の長さに合わせて素材を編集し，タイトル（文字）を加えて8小節のムービーを作成する。</p> <p>3 グループで試写会を行う。（10分）</p> <p><input type="checkbox"/> グループで互いのムービーを鑑賞し合う。</p> <p><input type="checkbox"/> 感想や気づきを自由に交流する。</p> <p>4 本時のふりかえりをする。（5分）</p> <p><input type="checkbox"/> ミニ編集後記を記し，次時につなげる。</p>	<p>○学習内容への興味・関心，期待を引き上げ，内容を概観できるような課題設定を行う。</p> <p>○自由に試行錯誤ができる環境を整えておく。</p> <p>・事前の取材時間の十分な確保。</p> <p>・タブレット環境の整備。</p> <p>○児童の製作の様子を見守り，適宜助言したり，話し相手になったりしながら，発想の喚起を促す。</p> <p>・失敗や，やり直しにも対応できるようにする。</p> <p>◆自分なりのイメージをもとに，素材の加工調整やムービー編集等の試行錯誤に没頭している。</p> <p style="text-align: right;">【思考・判断・表現】</p> <p>○試写会のねらいを明確に示す。</p> <p>・自分の表現意図の伝わり方を確かめる。</p> <p>・他者の表現から新たなアイデアを得る。</p> <p>◆編集のプロセスを振り返り，成果や改善点等を見つめ直すことができる。【思考・判断・表現】</p>

【引用・参考文献】

- 1) 中村和代（2014），『全米美術教育学会（NAEA）・前会長ロバート・セイボル教授講演会資料』
日本学術振興会科学研究費助成事業 基礎研究（C）研究成果報告書・資料，課題番号：25381200

